

**コネスコスクール海外交流  
只見小児童が  
オークランドの子どもたちと交流**

11月29日、只見小学校の6年生児童がオークランド（ニュージーランド）日本語補習学校の子どもたちとテレビ電話を活用した学習交流授業を行いました。

授業では「海外での取組を受けて提案を見直そう」というテーマのもと、只見小児童がオークランドの子どもたちに向けて「只見に人を呼び込むために何をすべきか」に関する発表を行いました。発表を聞いたオークランド側からは、地元の観光名所や料理に加え、「地域おこしの成功事例」「若者の動向」などについての紹介があり、児童たちに様々な「気づき」が生まれた授業となりました。



▲テレビ電話を通じ、オークランド側の説明を聞く児童たち

**日産財団の理科教育助成  
只見中2年生の理科の授業を公開**

12月5日、日産財団より教育助成を受けている只見中学校で理科の授業が公開され、日産財団の方や町内の教育関係者が参観しました。これは、子どもたちの科学的思考を伸ばすことなどを目的に、日産財団が小中学校等の理科教育に資金援助をするもので、只見中学校は昨年度より助成を受けています。

今回は、同助成により導入したタブレット端末を活用し、無脊椎動物ウニの受精を観察・撮影する授業が行われました。生徒たちは、撮影のタイミングに苦戦しながらも生命誕生の瞬間を見ようと熱心に授業に取り組んでいました。



▲ウニの受精を観察する生徒たち

**第七次只見町振興計画 専門部会  
今年度第二回目の評価検証会議**

12月6日、「第七次只見町振興計画」(4年目)の評価検証会議が朝日振興センターで開催され、様々な業種からなる専門部員の皆さんが出席しました。回会では、8月に各事業について評価を実施しており、今回はその評価の得点化と満足度や重要度に応じた分類が行われました。また、10月に実施された町民アンケートの暫定結果報告も併せて行われました。

今回の結果を受け、今後は町担当課で各事業の見直しや更なる検証、新たな取組の導入などに着手する予定です。なお、町民アンケートと評価検証の結果は広報ただみ2月号でお知らせします。



▲出席した専門部員の皆さん

**普段の生活から対策を  
脳卒中重症化予防講演会を開催**

12月15日、朝日診療所所長の若山隆先生を講師に、寝たきりや要介護状態の原因の第一位である「脳卒中」をテーマとした同講演会が行われ、約60人が参加しました。講演では、脳卒中の仕組みや症状、予防方法などが解説され、突然発症する血管の病気であることから、予防のために普段の食事・運動などに気を配り、血管を若く保つ「血管に優しい生活」が重要というお話がありました。

その後、医師の森冬人先生より、診療所の新理念や現在の検査・診療内容、また、身近なかかりつけ医としての活動内容などが紹介されました。



▲脳卒中について解説する若山先生(会場：季の郷湯ら里)

## レストランが先行して営業 只見スキー場でオープン式

12月20日、只見スキー場のオープン式が現地で行われ、関係者が出席しました。スキー場自体は、翌日(21日)からオープンしましたが、雪不足のため、リフト営業は十分な積雪量が確認できてからとなります。

※ロッジ内のレストラン「やまびこ」は16日から営業を開始しています。

式では、施設を運営する会津ただみ振興公社の渡部理一代表取締役より「利用客一人一人に丁寧なサービスを提供し、事故などに気を付けて運営をしていきたい」とあいさつがあった後、齋藤邦夫町議会議長の音頭で乾杯が行われ、最後にテープカットでスキー場のオープンを祝いました。



▲出席者によるテープカット

## 只見の更なる魅力発信に向けて ガイド組織設立発起人会議

12月23日、第一回目となる「只見町ガイド組織設立発起人会議」が役場で行われ、ガイド経験者を中心に11人が参加しました。町では、これまで「只見町公認自然ガイド」制度によりガイドの育成を重点的に実施してきましたが、次のステップとして「スムーズに地域を案内する仕組みの構築」が必要とされており、ガイド組織の設立を協議しています。

会議では、角田朋之さん(小林)が代表発起人として確認された後、進め方などの議論が行われました。今後、実際にガイド業務を行う会員募集などを行い、3月下旬に設立総会を開催する予定です。



▲会議の冒頭であいさつする菅家町長

## 只見町地域人材育成ダイヤモンド事業 成果報告会を開催

12月23日、「只見町地域人材育成ダイヤモンド事業」(主催…町教育委員会)の成果報告会が只見振興センターで行われ、町職員や町民の方々など約30人が参加しました。

同事業は、只見町を様々な分野でけん引するリーダーの養成を目的に行われているもので、平成22年度から10年に渡り、実施されてきました。これまで「6次産業化」や「民具の活用」、「福祉」、「アウトドア」など幅広いテーマで人材育成が図られており、10年間で延べ103人の皆さんが修了生となっています。



▲パネリストとして参加した修了・受講生と関係者の皆さん



▲修了・受講生によるパネルディスカッション  
(コーディネーター：渡部教育長)

成果報告会では、同事業の経過報告があった後、これまでの修了・受講生から7名の方々をパネリストに、「只見町の未来を考える」をテーマとしてパネルディスカッションが行われました。同事業により「印象に残ったこと」「現在の活動に生かされていること」、そして「これからの人材育成に期待すること」を議題に各パネリストがそれぞれの体験や成果、想いなどについて紹介しました。

今回、実際に同事業を活用した皆さんからいただいた報告・意見を参考に、町として今後の地域人材育成事業の内容や方法などに関する検討を進めていく予定です。